

# 繊維製品における資源循環ロードマップ

**2040年度の資源循環システムの構築、適量生産・適量消費の達成**を目指し、そのための**KPI**を設定。まずは、それぞれの項目で**2030年度をターゲットイヤーとした個別目標**を達成していく。

## 衣料品の回収量の増加に向けた制度整備

自治体や事業者のグッドプラクティスを収集・整理（環境省）

脱炭素化と再生資源の質と量の確保等の資源循環の取組を一体的に促進（環境省）

家庭から廃棄される衣類の量の2020年度比  
**25%削減**

## 資源循環システム構築に資する技術基盤の整備

選別・分離  
再資源化  
技術開発

複合素材繊維の選別・分離・再資源化にむけた実証研究

事業化

手放される衣料品のうち、  
繊維to繊維リサイクルで  
**5万トン**を処理

リサイクルプロセスの環境負荷低減

## 繊維製品における環境配慮設計の推進

環境配慮設計の国内規格（JIS）化の推進

国際規格（ISO）化の推進

グリーン購入法特定調達品目での対応を通じた環境配慮設計製品の公共調達での普及

LCA・CFP  
算出手順書の整備

大学・試験研究機関等における人材育成・技術指導支援

環境配慮設計  
ガイドラインの  
企業普及率  
**80%**

## アパレル産業における情報開示の推進・グリーンウォッシュ対策

「情報開示ガイドライン」策定・取組の推進

取組状況の確認・更なる取組の検討

環境配慮設計製品の表示方法・評価方法の検討

方法の決定

表示・第三者評価の運用開始

消費者教育・意識醸成の推進

国内主要アパレル  
企業の情報開示率  
**100%**

## 参考：欧州における対応の方向性

ESPR施行（未使用繊維製品の廃棄禁止、環境配慮設計の要件化、リサイクル繊維等の定義、DPP等）

CSRDに基づく情報開示の義務化

「持続可能な繊維戦略」  
ターゲットイヤー

必要に応じて追加の取組・対応の強化を検討

資源循環システムの構築

適量生産・適量消費の達成

2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030 2040（年度）